

気になったから 勝手に調べたブログ

3月号

第11回 「蛍の光は・・・」

卒業式の定番ソングに「蛍の光」と「仰げば尊し」がありますが、蛍の光の歌詞「ほた～るのひか～り ま～ど～の～ゆ～き～」って冬に蛍がおるわけねーやん！・・・って思うの俺だけ？いやっ！きっと変だと思う人が、14人はいるはず！まあそれは置いといて今回は、「蛍の光」について勝手に調べてみました。



いきなり衝撃の事実！

卒業式の定番ソング。実は、スコットランドの民謡

「Auld Lang Syne (オールド・ラング・サイン)」が原曲なんです！日本では1881年に日本語の歌詞がつけられてから、歌われるようになりました。初めタイトルは「蛍」でしたが、「蛍の明かりで勉強した」という中国の有名な話が伝わるように「蛍の光」にパワーアップしたそうです。

卒業式で歌われているのは、単に覚えやすく曲調が卒業式「ぽい」からだとか？でも、よく考えたら、冬に蛍がいるわけねーじゃん！と思いますよね～？調べによると、学校の制度は西洋を参考に作られたそうで、西洋では9月に入学して7月に卒業が当たり前でした。しかし、日本ではいろいろな都合を合せ、4月始まりの3月終わりになったのが理由です。



本家スコットランドは年末年始や再会、パーティーなどで歌われるそうです。「おお友よ久しぶりだな！昔話しようぜー！もち酒飲みながらよー！ガハハハ！」みたいな楽しい感じの宴会ソングらしい。

私も歌詞を読みましたが、やっぱりしんみり感より楽しく陽気で昔を懐かしむ感じでした。日本との温度差、面白いですね。



同じメロディでも、国や文化によって、再開や別れの曲になったりと、感じ方が変わるんだなと考えさせられました。

卒業式での涙が、本場では飲み会のスタートソングだと思うと、練習して、本番では感動して涙を流して歌ってたことを思うと別の涙が・・・でもこれも青春だったってことで(^.^;

今度、年末年始や友人にスコットランド版の「蛍の光」を熱唱してやろうかな？「宴会ソングだぞっ！」と(^.^)v

次回は「春バテ？」